



ご当地 **太坊さん** 茨城

茨 歯 会 報

No.672

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

October
2025
令和7年

10



Contents

デンタルアイ	1
大字 崇弘	
理事会報告	3
会務日誌	4
専門学校だより	6
女性歯科医会だより	7
スポーツ歯科委員会だより	11

表紙写真について

笠間稻荷神社 菊祭り期間中の文化の日に開催される「神事流鏑馬」です。
鏑矢を射て、的の割れ方によって来年の農作物の豊凶を占います。

(社)東西茨城歯科医師会 今湊 良証

「伝える」ということ ～第125回定時代議員会を振り返って～



副会長
大字 崇 弘

前回の茨歯会報にてすでにご案内のとおり、本年6月に開催された定時代議員会では、理事会より提出した5議案のうち、1議案が否決され、1議案が取り下げられるという結果となりました。

茨城県歯科医師会は、10年後を見据えた安定的で継続的な会務運営のためには、会費制度の見直しが避けて通れない喫緊の重要課題であると認識し、これまで継続的に検討を進めてまいりました。

この重要なテーマに向けて、第2期榊執行部ではまず本会の財務内容と事業内容を精査し、可能な限り経費の削減に努めました。その上で他県歯科医師会の情報や各種データを収集・分析し、地区長会のご意見を踏まえながら理事会内でシミュレーションと議論を重ねてまいりました。

第125回定時代議員会

こうして作成した議案は、直前の地区長会において一定の評価と賛同をいただくことができましたが、一部の地区長から

「変更の必要性は理解するものの、内容を地区会員に正確に伝える自信がない。地区で議論す

るためには、会長の言葉で直接会員に説明してほしい」との発言がありました。

これを受け、理事会では会員に向けて、動画『会員の皆様へのメッセージ』を新たに制作し、資料を配付配布と共にYouTubeにて公開、皆様に閲覧を促しました。

テーマ

- 1 将来の終身会員数増加に伴う会費収入減少への対応
- 2 今後の会員共済制度の運用

配信期間

令和7年4月25日～5月15日

令和7年6月9日～6月26日

こうした準備を経て、満を持して定時代議員会に議案を提出したのですが、当日地区の代表である代議員の先生方からは「会員への説明が不十分」「理解にはさらに時間が必要」との厳しいご批判をいただきました。

理事会が2年を掛けて準備、提出した会費問題に関する議案でしたが、地区の代表である代議員によって代議員会場で採決され、前述のような結果となりました。

代議員の使命と役割

そもそも代議員の役割とはどういうもので

しょうか。

代議員は、茨城県歯科医師会の運営において、以下の三つの重要な役割を担っています。

1. 最高意思決定機関である代議員会に出席し、会則改正、予算・事業計画の承認、役員選任などを審議・決定する。
2. 会員の代表として地区会員の声を本会に届け、また本会の方針を会員へ伝えることで、会員の利益を守る。
3. 地区歯科医師会と本会との情報共有や理解促進を通じて、組織の一体感と歯科医療の質向上に貢献する。

代議員は個人的な見解に左右されることなく、これらの役割を公正に果たすことで、地区の実情を本会の意思決定に反映させるという重要な使命を担っています。

また、代議員会の議決事項を地区に報告することで、双方向の信頼と協力を築く「橋渡し役」として、本会の健全な発展を支えています。

県歯理事の責務と「架け橋」としての重要性

一方、茨城県歯科医師会の理事にはどのような役割があるのでしょうか。

県歯理事は、茨城県歯科医師会の運営主体として会務の円滑な推進と会員との信頼構築のため、次の三つの責務を担っています。

1. 事業計画や予算執行などの会務を執行し、理事会の一員として運営方針を協議・決定し、本会の方向性を定め実行する。
2. 会長・副会長・専務理事を中心に、学術・社会保険・広報・学校歯科などの委員会を

担当し、理事間の協働によって組織を運営する。そのため理事には各分野の専門性と現場感覚の両立が求められる。

3. 地区歯科医師会や会員との連携を図り、同時に本会の方針や情報を地区に届ける。

この役割は単なる情報伝達にとどまらず、地区や会員の声を理事会に反映する双方向の「架け橋」として、極めて重要なものです。

「伝える」ということの重みを受け止めて

第175回代議員会の結果を通じて、私たち理事は改めて県歯からの情報発信を会員の皆様がいかに重視されているかを実感いたしました。

この役割は単なる情報伝達にとどまらず、地区や会員の声を理事会に反映する双方向の「架け橋」として、極めて重要なものです。

理事会が提案する方針や施策が、会員や代議員の皆様にとって納得のいくものであるためには、内容の充実に加え、より丁寧な説明を通じて本会の考え方を「伝える」という努力が不可欠でした。

県歯理事および理事会はこの気づきを糧として、より良い歯科医師会の在り方を模索してまいります。先月号『デンタルアイ』で榊会長が掲げた、「会務執行に向けて邁進し、次の世代への橋渡しをする」という強い意思の実現に向け、「伝える」ということにこれまで以上に真摯に向き合ってまいります。

会員の皆様、そして代議員の皆様には、引き続き第3期榊執行部へのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

理事会報告

第6回理事会

日 時 令和7年8月21日（木）午後2時

場 所 茨城県歯科医師会館 役員室

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 連盟報告

4. 報 告

(1) 一般会務報告

(3) 新規指定の歯科医院について

承認

(4) 疾病共済金の支払いについて

承認

(5) 第64回全日本学校歯科保健優良校表彰の第一次審査結果について

承認

(6) 各委員会報告について

学術委員会、厚生委員会、医療管理委員会、
広報委員会、地域保健委員会、介護保険委員
会、学校歯科委員会、社会保険委員会、専門
学校、フッ化物洗口プロジェクト委員会

(7) その他

5. 協議事項

(1) 令和7年度第1回地区会長協議会の資料について

承認

(2) 茨城県警察歯科医の報告・推薦について

承認

(3) 令和7年度関東地区歯科医師会役員連絡協議会分科会の出席者及び発言要旨について

承認

(4) 茨城県歯科医学会における非会員歯科医師の参加費用について

承認

(5) 第16回全国中学生ラグビー大会へのいばらきスポーツデンティスト派遣に係る一部費用（旅費）負担について

承認

(6) 第45回日本口腔インプラント学会関東・甲信越支部学術大会への後援について

承認

(7) その他

【今後の行事予定について】

9月11日（木）

16時から 第7回理事会

9月25日（木）

13時30分 関東地区歯科医師会役員連絡協議会（山梨県：甲府記念日ホテル）

10月16日（木）

16時から 第8回理事会

会務日誌

8月21日 第5回広報委員会を開催。会報8・9月号の校正・編集作業、レディースコーナー、第34回茨城県歯科医学会の当日資料とチラシ等に掲載する写真について協議を行った。

出席者 柴岡広報部長ほか6名

8月21日 第6回理事会を開催。令和7年度第1回地区会長協議会の資料、茨城県警察歯科医の報告・推薦、令和7年度関東地区歯科医師会役員連絡協議会分科会の出席者及び発言要旨、茨城県歯科医学会における非会員歯科医師の参加費用、第16回全国中学生ラグビー大会へのいばらきスポーツデンティスト派遣に係る一部費用（旅費）負担、第45回日本口腔インプラント学会関東・甲信越支部学術大会への後援について協議を行った。

出席者 榎会長ほか17名

8月21日 第1回地区会長協議会を開催。令和6年度シニア共済収支決算、今後の共済制度の運用、フッ化物応用推進事業、各委員会等実施事業報告、地区からの提出議題・要望等について協議を行った。

出席者 立原日立地区会長ほか27名

8月21日 第6回歯科助手講習会を開催。「歯科技工」「技工材料の取扱い」について講義を行った。

受講者 32名

8月21日 臨地実習講師会をオンラインで開催し、臨地実習について説明した後、実習内容について意見交換を行った。

出席者 大字校長ほか39名

8月22日 第1回茨城県医療審議会・医療法人部会がWeb形式で開催され、医療法人の設立・合併認可について協議が行われた。

出席者 榎会長

8月22日 第2回茨城県医療審議会・保健医療計画部会がWeb形式で開催され、届出により一般病床を設置する診療所の承認、地域医療支援病院の名称使用承認について協議が行われた。

出席者 榎会長

8月28日 第2回地域保健委員会を開催。令和7年度事業・年間スケジュール、親と子のよい歯のコンクール予備審査、高齢者よい歯のコンクール予備審査、歯科保健賞予備審査について協議を行った。

出席者 鶴屋副会長ほか11名

8月28日 第1回センター打合せ会を開催。令和6年度事業実績、令和7年度講習会・研修会及び学会発表について報告を行った。

出席者 榎会長ほか6名

9月 1日 第5回学術委員会をWeb会議として開催。令和7年度茨城県歯科医師会補綴歯科学会共催生涯学習公開セミナー、令和7年度日歯生涯研修セミナー、学術シンポジウム、スキルアップ

プセミナー、第34回茨城県歯科医学会について協議を行った。

出席者 鶴屋副会長ほか11名

- 9月 3日 県医療審議会（茨城県地域医療構想調整会議合同）がWeb会議として開催され、第8次茨城県保健医療計画の進捗状況、令和6年度病床・外来機能報告の結果ほかについて協議が行われた。

出席者 榊会長

- 9月 4日 茨城歯科専門学校戴帽式を挙行。歯科衛生士科2年生37名が大字校長から戴帽の儀を受けた。

出席者 86名

- 9月 4日 第3回地域保健委員会を開催。各種審査会の準備を行った。

出席者 鶴屋副会長ほか7名

- 9月 4日 第3回厚生委員会を開催。第45回茨城県歯科医師会地区対抗親善ゴルフ大会、第28回茨城県歯科医師会地区対抗親善ソフトボール大会について協議を行った。

出席者 谷口厚生部長ほか10名

- 9月 4日 親と子のよい歯のコンクール審査会を開催。6組の応募があり、審査の結果、最優秀に東島央・奈央実さん（土浦市）を、優秀に中泉瑞稀・陽菜乃さん、中川清美・紗和さんが選ばれた。

出席者 石川健康推進課長ほか3名 榊会長ほか9名

- 9月 4日 8020高齢者よい歯のコンクール審査会にて、応募のあった105名の高齢者について審査を実施。優秀賞に土浦市の益川章一さんほか6名が選ばれた。

出席者 石川健康推進課長ほか3名 榊会長ほか9名

- 9月 4日 茨城県歯科保健賞審査選考委員会を開催。候補として申請のあった団体4件に対し審査を行い、社会福祉法人聖朋会 特別養護老人ホーム サンシャインつくばを選出した。

出席者 石川健康推進課長ほか3名 榊会長ほか9名

- 9月 7日 関東女性歯科医師の会が水戸プラザホテルにて開催された。

出席者 榊会長ほか役員、女性会員多数

- 9月 8日 第4回ナイトオープンキャンパスを開催。ガイダンス、学校施設説明等を実施した。

参加者 5名

- 9月 9日 第3回摂食嚥下研修会を開催し、「摂食嚥下機能訓練の実践①」について研修を行った。

受講者 53名

専門学校 の だより

【戴帽式】

令和7年9月4日（木）、歯科衛生士科第56期生37名の戴帽式が、多くの保護者、来賓、歯科衛生士科1年生の出席する中、挙行されました。

大字校長からナースキャップを一人ひとりいただき、ナイチンゲール像の元から、各自のろうそくに灯が点火されました。幻想的なろうそくの灯に照らし出された学生の表情は、これから始まる臨地実習へ向けての期待と緊張がうかがえました。

その後、戴帽生代表の三次恋実さんが誓いの詞を唱え、臨地実習に臨むに当たり全員で歯科衛生士の誓いを唱和しました。

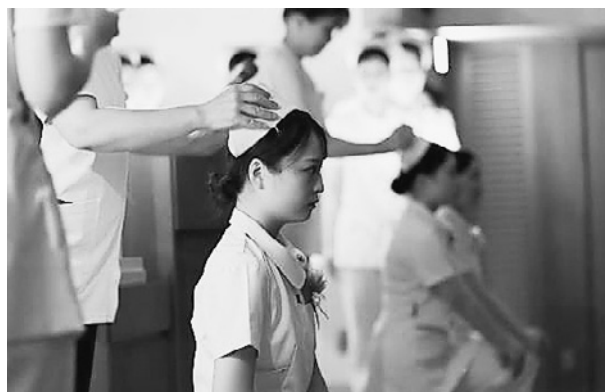
大字校長から「臨地実習は患者さんとの真剣勝負の場。自主性を持って積極的に考え自ら学んでいってほしい」と激励のお言葉をいただき、茨城県歯科衛生士会会長の岩村様からは「臨地実習は考え行動できる歯科衛生士になるための場、立派な歯科衛生士になるため頑張ってください」と励ましのお言葉をいただきました。

参列いただいた先生方から心強い励ましをいただき、勇気を持って臨地実習に臨もうと全員の目が輝いていました。

式典に参列した1年生は、普段は身近に感じる先輩達の歯科衛生士に一步近づいた姿に圧倒され、1年で学ぶことの重さを感じたようです。

9月下旬から始まる臨地実習では、これまで学内で学んだ基礎学習を生かし、歯科衛生士へと羽ばたくための更なる知識や技術を身に付けてほしいです。

（文責 春日）





関東女性歯科医師の会 in 水戸プラザホテル

茨城県女性歯科医会 川崎 菜穂子

令和7年9月7日（日）、水戸プラザホテルにて「関東女性歯科医師の会」が開催されました。

関東女性歯科医師の会は関東周辺一都五県の輪番制で開催されており、本年度は茨城県が当番県となりました。

日本歯科医師会会長高橋英登先生、茨城県歯科医師会会長榊正幸先生、茨城県歯科医師連盟会長飯野守康先生、水戸歯科医師会会長田澤重伸先生のご臨席を賜わり、協賛企業18社の皆様および水戸プラザホテルの御協力もあり、参加者も100名を超え盛大に開催する事が出来ました。全体会、講演会、懇親会の3部構成で行われました。



（1）全体会

当番県として茨城県女性歯科医会会長高木幸恵先生の挨拶に始まり前年度の報告、各都県における産休育休の対応や復職支援等についての取り組

みや女医会が主催する総会・講演会に多くの会員の参加を得るための工夫について多様な活動や課題への取り組みについて報告されました。

以下3つのプレゼンテーションを行いました。

①「青年歯科医師の会が運営する婚活パーティーについて」

発表：元千葉県歯科医師会理事 庄司 晃 先生

②「女性活躍推奨への取り組み」

発表：群馬県 久保田 順子 先生

③「小児歯科女性バンクについて」

発表：東京女性歯科医師の会顧問

難波 みち子 先生

いずれの発表も、地域や世代を超えた新しい歯科界の取り組みを示すものであり、参加者に大きな刺激を与えました。





(2) 八木亜希子トークショー

フリーアナウンサー八木亜希子氏をゲストに迎え、柴岡永子先生の司会によりトークショーが開催されました。軽快で温かみのあるやりとりは、まるで長寿番組「徹子の部屋」を思わせ、会場は終始和やかな雰囲気に包まれました。

テーマは「歯科の未来に期待して ～コミュニケーションの大切さ～」。患者さんとの信頼関係を築くために不可欠な「伝える力」や「聴く姿勢」の重要性について語られ、臨床現場や地域活動に直結する多くの示唆を得ることができました。また、近本洋介著『アメリカの医師は患者とどう向き合っているか』を紹介し、アメリカでは医師のコミュニケーション能力や患者満足度が評価され、医師や病院の報酬にも影響する仕組みがあり、日本でもアメリカほどダイレクトに報酬へ影響する段階には至らないものの、将来的には医療コミュニケーション力が診療報酬や人事評価に組み込まれる時代が来るかもしれないとのことでした。

さらに印象的だったのは、ハラスメント回避についての話題です。八木氏は、お笑い界の大御所

から学んだ「場を和ませ、笑いに変えるスキル」を実体験のエピソードを交えて披露し、笑いとともに「なるほど」と納得させられる場面がありました。こうした姿勢は、私たち歯科医師が日常診療において直面する場面にも応用できるものであり、貴重な学びとなりました。

医療関係者とは異なる立場からのお話でありながら、長年の取材経験や豊かな人間関係づくりを通して培われた言葉は、歯科の未来を見据えた医療コミュニケーションの本質を的確に言い当てていました。参加者からは「診療現場にすぐ活かせる」「地域活動にも役立つ」との声が多く寄せられ、大変充実したひとときとなりました。



(3) 懇親会

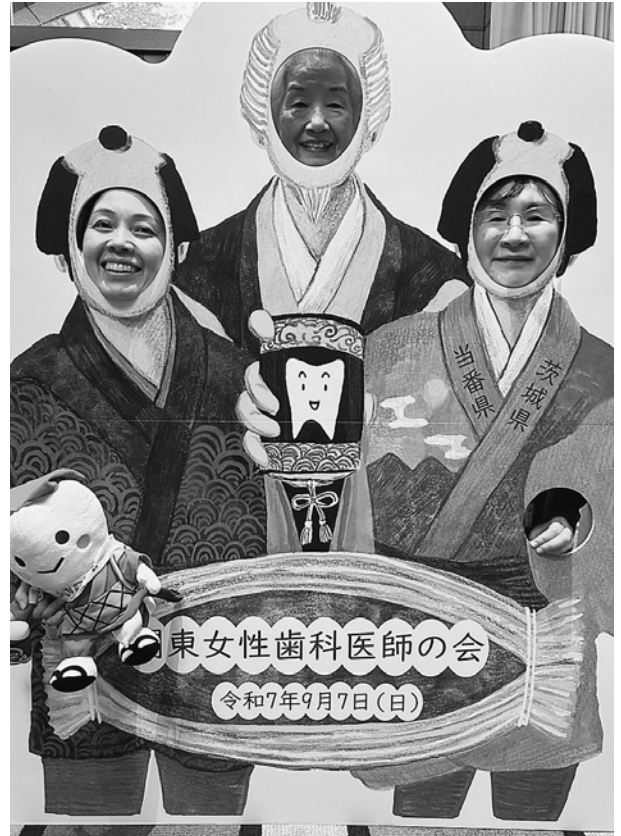
同会場にて中井巳千代先生の司会により懇親会が行われました。高木幸江先生のご挨拶の後、高橋英登先生より医師・歯科医師・薬剤師数および概算医療費の経年推移や諸外国との比較、給与について等のお話を賜りました。榊先生、飯野守康先生より御心のこもった女性歯科医師応援のご挨拶を頂き、埼玉県女性歯科医会会長目澤克子先生のご発声により乾杯、ご歓談となりました。山梨県の七沢久子先生に準じて東京都の竹内千恵先生、茨城県の小野寺鏡子先生に貴重なお話を聞かせいただき、大変学びの多いひと時となりました。

懇親会を通じて、世代や地域を超えて交流を深

め、女性歯科医師のつながりをさらに強めることができました。これもひとえに、茨城県歯科医師会を始め関係各位のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

今後とも女性歯科医師が互いに学び合い、支え合いながら地域医療に貢献できますよう茨城県女性歯科医会の活動に温かいご指導ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。







太陽生命カップ2025 第16回全国中学生ラグビーフットボール大会

2025年9月13日(土)～15日(月)
事例報告書

9月13日(土)から3日間開催された「太陽生命カップ(全国中学生ラグビーフットボール大会)」に、
いばらきスポーツデンティストとして担架搬送補助に参加いたしました。

その活動の中で発生した歯科に関する事例について、下記のとおりご報告申し上げます。

第一報告者 鈴木 聡美

開催日・会場 2025年9月14日 第2日目 ツインフィールド・人工芝

報告事項

- 1) 鼻血 3名、裂傷 2名 (止血処置、搬送なし)
- 2) 頸椎捻挫の疑い 1名 (担架搬送後、救急車)

10時50分試合開始の吹田ラグビースクール 対 南茨城ラグビースクールにて

11時50分試合終了と同時にタックルを受けた南茨城ラグビースクールの選手が倒れたまま起立できず万本マッチドクターから担架搬送の指示があった。意識はあるが手足がしびれているとのことで、
頸椎捻挫の疑いがあり医務室でもスクープストレッチャーに固定したまま救急搬送を待った。

救急車の到着が遅く到着したのは12時40分ごろであった。

感想

私が太陽生命カップの担架搬送補助に参加して3年目になりますが 負傷者の多い年でした。

朝のスクープストレッチャー搬送練習が非常に重要であることを再認識しました。

救急車の到着が遅く心配したのですが最後まで緊張感を持って対応出来たと思います。

第二報告者 柴岡永子

開催日・会場 2025年9月15日 第3日目 ツインフィールド・人工芝

報告事項

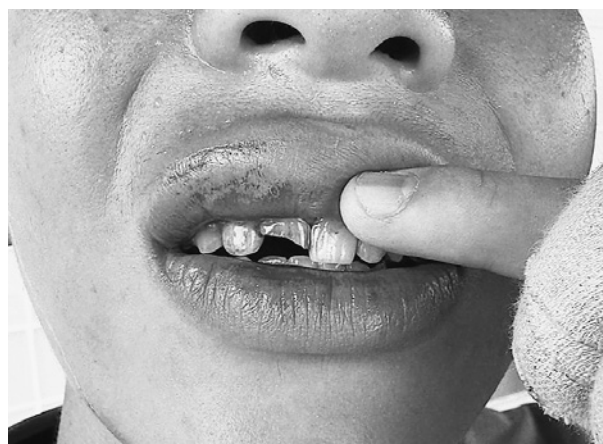
本大会第3日目の第一試合終了直前、南茨城ラグビースクール所属の選手において重度の歯牙外傷が発生した。タックルを起点として右側中切歯が歯頸部より三分の一に水平破折し、露髄が確認された。選手はマウスガードを装着していたが、その形態は極めて薄く、十分な保護効果を持つものではなかった。今回の事例は、競技特性に由来するリスクに対して、適切な予防措置が講じられていなかったことを示すものである。

受傷直後、選手は激しい痛みを訴え、精神的な動揺もあり試合を退場した。その後、休日診療施設へ紹介し受診に至った。幸いにも担当歯科医師はスポーツデンティストであり、専門的かつ迅速な対応が行われた。本件を通じ、緊急時に備えた地域医療機関との連携の強化が今後の課題として明確になった。

感想

ラグビーをはじめとするコンタクトスポーツでは、歯の破折や脱落といった外傷が選手の競技人生や日常生活に深刻な影響を及ぼす。適切な厚みと形態を備えたマウスガードの使用は外傷予防の要であるが、十分に浸透していないのが現状である。

今回の事例は、選手自身の自覚を促すとともに、学校や指導者、競技団体など関係者の理解と協力が欠かせないことを示している。口腔外傷を未然に防ぐための啓発活動を一層進めていく必要性を痛感した。今後は茨城県歯科医師会としても競技関係者や医療機関との連携をさらに強化し、安全で安心できる競技環境の整備に努めていきたい。



第三報告者及び纏め 荻野 義重

開催日・会場、 2025年9月15日 第3日目 K'sデンキスタジアムメインフィールド

第2ブロック（ラグビースクール男子の部）決勝、芦屋ラグビースクール（兵庫県）対 世田谷ラグビースクール（東京都）

終盤芦屋ラグビースクールの選手がタックルを受け後頭部を強打。マッチドクターが救護に向かいスクラップストレッチャーの要請が出たので救護に向きました。スクラムハーフの選手でしたので体格も大きく大人6人で搬送するのですが、かなりの力が必要とされました。

救護室に入りマッチドクターが脳震盪の症状について質問事項を選手に伝え答えていましたが、ほとんど覚えているようでしたのでしばらく様子を見ることになりました。両親も来られ選手本人もかなり安心したようでした。救急車の手配をするまでの状態ではないと言うドクターの判断で試合後の表彰式には参加していました。

この大会に救護班として参加してから私の受け持った試合で搬送を行ったのは2名ですが、やはり他の試合でも今回鈴木先生から報告が上がったように緊急搬送もありました。毎回試合前には搬送手順を確認して実習タイムを設けていますが、いざその場になると緊張も走りました。鈴木先生には選手に寄り添って救急車が到着されるまで付き添いをさせていただきありがとうございました。

このほかの負傷者としては柴岡先生が待機をしていた第2会場のツインフィールドでは、歯科医院で作成したマウスガードを装着していたという事でしたが、残念な事に上顎右側前歯の破折が起きてしまいました。当初は帰宅後かかりつけの歯科医院に行く予定だったようですが、痛みが激しく水戸市の休日歯科診療を受診することになりました。しかし、休日診療当番医になかなか連絡が取れないという事でしたが、柴岡先生から何とか連絡がつき、受診となりました。当日の担当医と先生はスポーツデニティストだったという事で処置はスムーズに行われたと思います。来年度の歯科治療の体制については土曜日から試合が始まる事もあり、一般診療所で救急処置が出来る歯科医院の協力も必要になると思います。その後の日程でも連休の試合にもなると思いますので休日当番医との連絡、連携についても今一度確認していきたいと思います。

最後に歯牙破折でのマウスガード写真や担当された柴岡先生からの報告では、マウスガードの形態等を見ても適合性も良くなくマウスガードとしての機能を十分に発揮されていない状態でした。まだまだスポーツ歯科を周知されていない事が残念でなりません。より一層の周知と啓発活動をしていかなければいけないと思います今回の活動報告とさせていただきます。



みんなの写真館

Photo
Gallery



(社) 東西茨城歯科医師会 今湊 良証

会 員 数

令和7年8月31日現在

地 区	会員数 (前月比)	
日 立	118	
珂 北	143	
水 戸	153	-1
東西茨城	73	
鹿 行	105	
土浦石岡	175	
つくば	153	+1
県 南	179	+1
県 西	155	
西 南	100	
準 会 員	12	
計	1,366	+1

みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、ご自宅の古いアルバムに埋もれた写真などをお送り下さい。

1種会員	1,066名
2種会員	114名
終身会員	174名
準 会 員	12名
合 計	1,366名



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 令和7年10月

発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和2丁目292番地の1

電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075

ホームページ <https://www.ibasikai.or.jp/>

E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 渡辺 進

編集人 柴岡 永子



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。